先導地区Ⅰ

風景づくり先導地区の紹介

首里城周辺地区 那覇市

かつてそのまちなみは、首里城を中心に石畳道、石垣と屋敷内の樹木が調和した全体が庭園のようであったと言われていた首里城周辺地区では、首里金城町地区や龍潭通り沿線地区を中心に、古都・首里の城下町にふさわしい沿道景観形成が進められています。先導地区の認定要件と沖縄県の景観形成に対する支援策（沖縄の風景づくり人材育成事業）を活用した地域の取組みを紹介します。

■風景づくり先導地区認定要件

要件1　都市景観形成地域

・首里金城地区：平成6年4月に指定。
・龍潭通り沿線地区：平成14年12月に指定。

要件2　首里杜まちづくり推進協議会

・計画に基づき、新・首里杜構想による歴史まちづくりを推進することを目的として令和4年9月21日に設立。
・地域、事業者、学術機関、行政などの各関係機関から構成されている。
・地区のまちづくりに関係する各主体が、計画に示した地区の将来像を共有し、そのために必要な取組等について議論する場としての役割を担う。
・また、計画に位置づけた取組の具体的な調査や検討など計画の実施主体としての役割も担う。

要件3　首里杜地区整備基本計画

・計画の意義
本計画は、「首里城復興基本計画」の基本施策に位置づけられた「新・首里杜構想による歴史まちづくりの推進」を目的として、首里杜地区に関連する国、県、那覇市の分野別計画と整合を図りつつ、歴史まちづくりの目指す姿や具体的な施策などをとりまとめて整備基本計画とし、計画期間における各取組の具体的なロードマップを整理するものである。
・計画期間：2022(令和4)年度～2031(令和13)年度までの10年間
・基本方針
(1)古都首里を感じられる空間の創出
(2)歴史文化資源等の保全・整備・活用
(3)暮らしと観光が両立したまちづくり

■歩いて、見て、楽しいスージグヮーづくり

●龍潭通りはかつて士族の屋敷が建ち並んでいた首里城に近接する通りであり、その沿線地区は現代においても首里の観光・商業の核であり、首里城城下のメインストリートとなっている地区です。

●大中町自治会では、活用されていなかった大和井戸(ヤマトガー)にポンプを取り付け、石張りによる修景を行い、今では周囲の草花の水やりなどに利用されるなど水と潤いのある風景を再生しています。

ポンプ取り付け

●当蔵町自治会では、地元や観光客にも目につきやすい天王寺井戸とその周辺に琉球石灰岩張りによる修景とヘゴポット等による植栽を行っています。

ヤマトガー

ブロック塀に琉球石灰岩を張り付ける作業

■「生まれてよかった」「育ってよかった」「住んでよかった」みんなが誇る金城町

●首里城の城下町として栄えた地域で、世界遺産のひとつである玉陵や、400年の歴史を物語る石畳道などがあり、歴史的景観を残す地域です。また、アカギ群生周辺は、ムーチー（鬼餅）発祥の地として知られています。首里城に近接することから、国内外の観光客も多く訪れています。

集合写真

●ムラヤー子ども会・青年会や地域のサークル等の活動を通じて、ムラヤー花・緑いっぱい活動、金城町案内リーフレット作成、石畳道を照らす竹灯籠づくりなど、地域コミュニティーの形成と若手の人材育成を図る活動を展開しています。

鬼ムーチー由来の紙芝居

灯りのともった竹灯篭